

その他の建設業－その他における金属材料を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	10～11	倉庫内を片付け中に、仮置きしていた鉄筋に引っかかり転倒、置いてあった角材に左背中を強打した。自力で歩行等は出来るものの痛みが酷く、背中側2番目の肋骨が骨折していることが分かり、全治1ヶ月程度にて安静が必要になった。	67～49	30
1	9～10	現場作業所受入コンベヤにて、エプロン取付作業中、エプロンの両端を2人でそれぞれ持ち、所定箇所にセットしようとしたところ、片側がアタッチメントに乗らず落下し、もう一方の片持ち状態になった。その際、もう一方側を持っていた被災者の左手示指と中指が、隣に仮置きしていたエプロンとの間に挟まれ負傷した。	47	—
1	13～14	測量をする作業において、アスファルトに金づちで目印になる測量鋏（メジャーネイル胴部径5mm×頭部径9mm×長さ40mm）を打ち込んでいたところ、鋏の頭部が欠けて右目に飛び込み、受傷した（ヘルメット、安全靴着用）。	52～9	1
2	14～15	当社倉庫前で、単管足場の組立部材の片付作業中、軽トラックの荷台からバケツに入れたクランプを降ろす時にジャッキベース（長さ60cm、幅4cm、重さ5kg位）がバケツに引っ掛かり落下し、左足に当たった。ひどく痛んだが、出血は無かったので当日は帰宅し湿布薬を貼付した。翌日は自宅で休養した。翌々日に病院へ行ったところ、左足小指の第一関節から指先部分で完全に骨折していた。	67～9	1
3	16～17	改修工事で使用するスチール足場板（長さ3600mm）をトラックの荷台に積み込み作業中、25枚重ねた足場板を荷台の上で整えていたとき、1枚の足場板が滑り落ちてきて、それと一緒に荷台（高さ約1m）から後ろ向きに転落し、左腰部を受傷した。	67～9	1
		被災者は、リニューアル工事現場において、足場解体作業中に足場資材（ブラケッ		1

3	16~17	ト) を取り損ねてしまい、資材が顔面に当たり、鼻とあごを骨折した。	22	~ 9
3	15~16	事務所の資材置場でトラックへの積み込み作業中に、抱えていた部材（足場の材料）のうち一本がスルッと抜け落ち、靴の上から左足の親指を直撃し、親指の第一関節辺り、爪の上辺りから切れて出血した。	27	~ 9
3	7~8	残土の積み込みをする2tダンプを誘導していたところ、足元の鉄板がユンボの移動によりずれてしまい、両足にのってしまったため、右足の踵と左足の指を骨折した。	61	~ 9
3	16~17	現場が終わり、事務所の置き場に戻ってきて片付け作業をしているとき、足元に転がっていた鉄筋に気がつかず、右足裏の真ん中あたりを踏み抜いた。	28	~ 9
3	16~17	鉄骨造倉庫の解体作業中にブレスの丸鋼をガス切断中、切断したブレスが落下し、右足の第1指と第1指の付根に接触し火傷した。	44	~ 29
4	11~ 12	被災者は、同僚と上階へLGS材の差し上げ作業をしていたとき、1階でLGS材を持ち上げ、振り回す際に左足にぶつけ被災した。	22	~ 9
4	16~ 17	当社内にて片付け作業中、重機で鉄板を吊り、オペレーターが鉄板を降ろそうとした時に合番していた補助作業員の手が入っているのに気づかず鉄板を下したため、鉄板と地面に挟み左手中指先端を負傷した。	45	~ 9
4	16~ 17	自社資材置場内の鋼管パイプ置場で長さ1mのパイプを整理するため束ねる作業をしていた時、置き方が不安定だったため1mぐらいの高さから50本ぐらいのパイプが右足甲に落下し骨折した。	40	~ 9
5	10~ 11	足の下で片付け作業をしている時に、足場の部材が倒れ落ちてきて背中に当たった。当初は打撲だと言われたが痛みが取れず、後日に腰椎突起骨折だと診断された。	36	~ 29
	16~			1

5	17	自社倉庫において、資材の整理作業を行っていた際に資材に手をぶつけた。	49	～ 9
6	11～ 12	会社工場内吹き抜け塗装作業場で、鉄骨のパネルをフォークリフトに載せ、後ろに移動する際、鉄骨パネルをパレットに下ろそうとした時に、振動でパネルがフォークリフトから滑り、ツメにパネルがぶら下がった状態となった。鉄骨パネルを地面に下ろそうとした時に、自分の方へ倒れて来て右足脛にぶつかり、足首を挟まれた。	66	～ 10 29
6	14～ 15	工場でのベッケン7号炉製品排出装置整備作業において、製品排出装置のシャフト交換作業を行っていた。シャフトを抜き出した後、シャフトを排出する際に吊っていたワイヤーロープが切断し、シャフトが転倒し、被災者に当たったと推定される。	56	～ 1 9
6	16～ 17	自社の処分場にて、産業廃棄物の分別作業を行っていた際、針が足の甲にささり、2～3日放置していたところ、腫れてきた。	19	～ 10 29
7	13～14	当社中間処理場において、トラックの荷降ろし（手降ろし）作業中に、金型のクズ同士がぶつかり、その際に鉄くず破片が飛散し、右目にあたり右目に傷がついた。	71	～ 10 29
7	16～ 17	自社の作業場にて型枠積み込み、積おろし中トラック荷台より足に落下し、右足親指骨折した。	62	～ 1 9
7	8～9	営業所にて、足場をトラックへ積込む作業終了後、積荷の調整用に使用していた鉄パイプ（長さ1m、幅5cm、重さ2.8kg）を、積荷の上にいる作業員から下にいる本人が受け取る際に、右手を差し出したところ、パイプが偶然右手薬指にはまってしまい、そのままパイプが倒れる際に重さに耐えられず、右手薬指を骨折した。	33	～ 10 29
7	15～ 16	工場内、作業加工場にて重さ約60kgの材料（加工前屋根材、コイル、ガルバリウム鋼板）を整頓作業中、材料が倒れるなどの落下があり、それを保護するように右手で材料を受け止めた。その際、材料と床とで右手を挟まれ、右手を負傷した。	26	～ 1 9
	10～	改修工事にて、鉄筋加工中に誤って鉄筋に左足の親指を強打した。当日は、痛みを		1

9	11	我慢し仕事を続けたが翌日になり腫れがひどくなったため、病院へ行った。	31	～ 9
9	11～ 12	資材置場に於いて不良鉄アングル（約15kg重）を整理中、左足の甲部（安全靴使用）鉄のない部分に落とし、負傷したものである。	67	1 ～ 9
9	11～ 12	工業所配管取付工事現場に於いて、作業場内を移動中、錆びたボルトが上向きにあり、誤って右足で踏んでしまい、右足土踏まずに刺さり負傷した。	23	1 ～ 9
10	11～ 12	本館2階の、食生活実習室を内装解体時に、天井の木部材を撤去しようとして、吊天井に上がりバールで作業中に、横に移動して作業を行う際に足元の部材が木材からスチールに変わり換気レンジの所から先も頑丈と思い移動したところ、スチールの天板と一緒に床に転落し、腰を負傷した。	50	10 ～ 29
10	15～ 16	本社工場内において工場内を整理するためH鋼（鋼材）重さ約40キロを両手で移動させていたところ誤って鋼材が倒れ、右手人差し指を負傷した。	45	1 ～ 9
10	8～9	朝礼後、1F外部足場外側に立て掛けてあったワイヤーメッシュ13枚を固定していたトラロープを外し7枚を玉掛けしようとした際、立て掛けていたワイヤーメッシュの角度が垂直に近かったため、被災者に倒れてきた。	29	10 ～ 29
11	15～ 16	当社資材倉庫にて翌日の現場作業準備中に、H鋼の破片に足が引っ掛かり前のめりに転倒してしまった。その際、右脇腹を足場パイプに強打した。その後、痛みが引かないため病院に行った。	62	—
11	8～9	FRP管φ500の荷卸し作業の時、クレーン式バックホウで上部管材を吊り下ろしする作業の時、管を束ねるスリング材を管に回す作業を手伝おうとした被災作業員が、管から足を滑らせ落下し、着地した位置にレバブロックがあった為、左足を被災したものである。	65	10 ～ 29
11	15～ 16	構内資材置き場で、資材の整理作業中、資材を降ろす時誤って左手指を挟み負傷した。	20	10 ～

				29
11	16~ 17	仮設材の整備作業をしており、資材を積み重ねている際、持ち上げていた左手が滑り、右手中指を材料で挟み、骨折した。	47	30 ~ 49
12	10~11	動物病院の廃棄物回収のため、トラックの荷台で荷物の積み込み作業をしていた。積み込みをした鉄のカゴがすべり落ち、鋭角部分が左大腿部を裂創させた。	33	1 ~ 9
12	15~16	当事業所工場内において、製造後のダクト（1800mm×1000mm×600mm、重さ約6kg）を同僚と工場内を移動させて地面に降ろしていた際、同僚との息が合わずバランスを崩してしまい、ダクトと地面に右手小指を挟み、骨折負傷したものである。	44	10 ~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html